

私はクアラセランゴールについて、主に事前学習・準備を行った。クアラセランゴールはマングローブに群生するホテルが有名で、私はマングローブに関わる研究をしているため、ここを訪れる計画を立てた。しかし、調べてみると、この土地は文化においても魅力的であり、この土地の学習を通して、マレーシアの自然と文化の両面を知ることができた。

はじめに、マレーシアの自然は非常に豊かである。マレーシアは熱帯域に位置し、国土の約 60%が熱帯雨林である。熱帯雨林には多種多様な生物がいるとされ、マレーシアでも稀少な野生動物が数多く生息している。さらに、マングローブも熱帯域に特徴的である。マングローブ域は非常に高い生産性を持っていたり、エビや魚の成育場でもあったりと、生態学的に重要なハビタットとされる。さらに、材木や燃料として利用できるため、人々の生活にも深く関与している。しかし、熱帯雨林は農地開拓によって、マングローブは養殖池への転換によって、20 世紀後半に激減している。この状況を受けて、国内には自然保護区が多く存在する。その一つがクアラセランゴール自然公園である。ここは渡り鳥やマングローブの保護区である。渡り鳥以外にもマングローブ域にはカニや貝、魚など多様な生物を観察することができる。

次に、マレーシアは歴史上、複雑な民族構成を持っており、様々な宗教の文化が混在する。マレー系（約 67%）、華人系（約 25%）、インド系（約 7%）の順に人口は多く、イスラム教が国教ではあるが、華人系には仏教、インド系にはヒンドゥー教が主に信仰されている。マレーシアは太平洋とインド洋を結ぶマラッカ海峡に面している。このこともあって、マレーシア（当時のマラッカ）はポルトガル、オランダ、イギリスと複数国の支配を受けてきたのである。さらに、第二次世界大戦中には、日本もマレーシアを占領した。そのため、マラッカをはじめマレーシアの様々な場所で、多様な文化を感じることができる。クアラセランゴールにあるメラワティの丘もそういった場所である。メラワティの丘は河口域に位置するため、かつては外敵から守るための要塞であった。しかし、18 世紀にここもオランダによって破られた。様々な民族や文化が混在している一方で、近年では先進国入りを目指して民族融和が政治上で掲げられている。マレーシアは長い間植民地であったにも関わらず、日本を手本に目覚ましい経済成長を遂げている。国内総生産（GDP）は、ここ 10 年間で約 2 倍に成長した。しかし、経済格差が東南アジア最大規模に大きいのが問題となっている。人種別に一人当たり GDP が異なり、民族別の世帯平均月収は華人系（約 6400 リンギ）、インド系（約 5200 リンギ）、マレー系（約 4500 リンギ）の順である。

最後に、クアラセランゴールへ行く計画を立てる際、安全管理をする必要があった。マレーシアは比較的治安が良い国であるが、やはり日本ほど安全とは言えないようだ。日本人という理由で高い値段を設定されたり、置いていた荷物がなくなったりと、気を付けなければならない点も多い。また、森林へ行くため、感染症などの病気やケガには特に注意しなくてはならない。

今回渡航するにあたり、マレーシアの様々な方面で知識を深めることができた。実際に行ってみて、それを実感するのが今から楽しみである。